

七月一日から一週間、車で北陸から飛騨をまわってきました。

渡邊さんの中国秘境のお話に比べればまこと陳腐でございます。

ミンク原稿夏枯れの由、駄文お許しを。

これまでも、北海道、東北、関東、九州と温泉を中心にしたドライブを組み立ててきました。

今回方角をかえて、東にハンドルを切ることにし、いつものように一週間単位ぐらいの旅程を立てました。

ルートは岡山↓三国（休暇村越前三国泊）↓金沢（民宿銀松泊）↓白山（永井旅館泊）↓奥飛騨福地温泉（元湯孫九郎泊）↓新穂高温泉（槍見館）↓近江八幡（休暇村近江八幡）↓岡山です。旅程の順に綴ると小学生の夏休み絵日記になるので、ここは拘っている温泉的を絞ってみたいと思います。

温泉宿を選ぶときいくらかの基準を自分なりに決めていきます。話は少し堅くなるのですが、羅列しますと、

- ・ 源泉百パーセントかけ流しか
- ・ 加水、加温していないか
- ・ 浴槽の換水は毎日か
- ・ 浴槽に注がれているお湯は飲めるか
- ・ 部屋数は十室ぐらいまで
- ・ 料金は一万五千円から、やま二万円まで

などでございます。

これ以外にも、料理の質や女将と従業員の対応、布団や部屋、トイレの清潔度等々にすればきりがありませんしそんなこと事前に電話で聞くわけにも参りません。行ってからのお楽しみでもしておきましょう。

さて、今回温泉宿は三箇所、白山、福地、新穂高です。

白山の永井旅館は金沢の南、車で二時間半、登山口にある古い木造の一軒宿でアクセスは決してよくありませんが山菜料理が美味でした。お湯もグー、飲水可のお湯は淡いにこり湯、ポカリスエットの味がします。シーズインの前でしたので、他の客はおらず、山小屋風の素朴な宿で貸切の状態を満喫しました。料金もリーズナブルで一万二千円ちょっと。

次の福地温泉孫九郎は数軒の宿が静かな佇まいを見せる奥飛騨温泉郷の老舗旅館。お湯へのこだわりはすごく情報開示に熱心で熱交換システムを駆使して源泉の良さを守っています。どこでもやっている外来湯をせず泊り客を大切にしているのは見識。お湯は少し金気臭がして飲水可。食事は大部屋ですがいまどきめずらしく女将さんが挨拶に回ってきます。



ました。

若い研修中の仲居さんが温かい料理を何度も持ってきて、やや巻き舌で愛想良く、私の携帯ストラップを「カワイイ！ドコモダケでちゅね」とこの出身？「関西です」「神戸なの」「そんな洒落たところではありません西宮です」急に「お客さま鍋がたべごろでございます

ありがとうございます」と言っていてひらりと隣の客席へ「結婚何年ですか？二年、新婚でちゅね、馴れ初めは」「お客さま五平餅が焦げてますよありがとうございます」「ここでも急に仕事の会話に切り替える早業は見事でありました。

帰り際、見送ってくれた若女将、手がつけられないほどの美人で少ない後ろ髪を引かれて長立ち話。大女将の娘でイケメンの婿をとって家業を継いでいることがわかりました。「私もあと三十年たてばあんなになるんだわ」なんて可愛いことを申します。宿代一万八千円納得。

ここから至近距離に槍見館があります。溪流のせせらぎと名峰槍ヶ岳が売りの明鏡止水の宿。ロケーションは申し分なく風呂から槍が見えます。風呂も内風呂、露天など十箇所もあり貸切り風呂が多いのが特徴です。そのせいか若い人から熟年まで客層が幅広く平日にもかかわらず客は多かったです。明らかに夫婦でない若いカップルもめざわりでございます。

個人的にはにこり湯が好きなのですがここは単純泉。古民家を移築した建物はしっかりと落ち着いていて、割高な囲炉裏つきの部屋にはいりました。なんで夏に囲炉裏なのとつまらないことに悩んでしまいました。女将や主人の顔は分からなかったのですがすべてにおいて満点に近い宿でした。

駐車場の車も我がシトロエンをはじめ欧州の名車が多く首都圏ナンバーもちろほら。



槍見館内風呂



槍見館
露天風呂

十一時チエックアウトでのんびり、帰り際風呂付離れから大型ベンツに美女を乗せた成金さんが帰り支度をしていました。夫婦とはとても思えぬ佇まい。タバはどんなことがあったのだろうかと邪念が走ります。しばらく見とれていましたが自分には関係ないと気づきエンジンキーを回しました。宿代二万二千元は張り切りすぎでした。ここまでが温泉閑話。お口直しに他に気になったことを書き加えますれば

・ 休暇村に二箇所泊まりました。どこも

一等地に広大な敷地を持ち料理、部屋の広さは及第点。食堂はまるで養老院。民放健保の補助ありがたいです。

・ 金沢の民宿銀松はネットのロコミラン

キングでトップの宿。素泊まり三千元で清潔。外人のカップルとあと一名で空いていました。

・ 白山から白山スーパー林道を走って白



スーパー林道



白川郷

- 川郷に抜けました。車にほとんど出会わず下電バスにバツタリ。ご苦労さん。ミンクの写真作品に服部さんの写真がありびっくり。通行料三千五百円、他に変え道なしです。
- 国宝彦根城に初めて行きました。通常五百円のところ四百周年とかで庭園他とセット料金にして千円。さすが近江商人。金沢は戦災にあっていないだけあってしっかりと落ち着いていました。兼六園、香林坊、茶屋町、近江町市場と伝統産業、銘菓など奥が深いです。スケールは違いますが飛騨高山も似ています。
- 雨の白川郷を見て歩きました。大屋根が一般住宅と混在、カメラアングルに苦労します。思っていたほどでもないのと世界遺産、安売りにすぎでないのと心配になりました。
- 東尋坊を再訪しました。単なる崖？日本の自然が売りの観光地がチマチマしている見本です。すぐになんとか岩と名前をつけたがるのでしょうか。

そろそろ旅の疲れも出てきたのでこの辺でペンをおきましよう。最後に、これまで秘湯めぐりをしてきたのですが、このところ食傷気味になっています。なぜなら本当の温泉はもうないのであるかと思いはじめたからです。湯船の底からふつふつとわき出ている自然湧出の湯はきわめて少なくなっています。政府の温泉管理がでたらめで荒れ果てているのが実情です。温泉法が施行されたのは昭和二十三年の戦後まもなくです。



白山スーパー林道

「温泉とは地中から湧出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）で別表に掲げる温度または物質を有するものを言う」別表の温度については、「温泉源から採取される時の温度が摂氏二十五度以上」となっています。また物質についてはメタン珪酸、水素イオンなど十九項目にわたりそのうちどれかが温泉水一キログラム（一リットル）当たり規定の量以上含まれていれば「温泉」として認められます。二十五度以下であっても十九項目のうち一つでも物質の規定の量を満たせば「温泉」だし物質がなくても二十五度以上あればそれも「温泉」になります。地熱発電所の水蒸気で沢の水を温めても温泉と週刊誌が騒いだ事例もありました。

もう一つ、浴室に「成分分析表」なるものが仰々しく掲



示してあります。湧出地のデータで湯船ではありません。加温しようが加水しようが入浴剤を入れようが違反ではないのです。さらにこれには有効期限もありません。時折セピア色の分析表を見かけます。何十年も前の日付が記してあるものもあります。源泉が枯渇しても有効なのです。まるで車庫証明と同じです。東京都心でも温泉がいくつも生まれています。千五百メートルもボーリングすればお湯が出てきます。今や有名な温泉地でも掘削、ポンプで吸い上げているところが大半といってよいでしょう。今ややりたい放題なのです。地球がイタイイタイと泣いています。これまで訪ねた秘湯でもう一度行ってみたい宿はごくごく少ないのがホンネです。

ぼやき過ぎて湯あたりしそうなので中締めといたします。
デザートに自画自惨の駄句を

- ・ 日帰り湯汚れた後が泊り客
- ・ お布団を離して寝たい夜もある
- ・ 彦根城近江商人鎧着て
- ・ 貸切り湯いちやつく声が漏れてきて
- ・ お互いに目を背けたい貸切り湯
- ・ たどり着く秘湯はどこも銭湯なみ
- ・ 湯上りは色気もなくて荷崩れし
- ・ 高速道そばに無言の妻が居て
- ・ また止まるトイレ休憩増えてきて

- ・ バイキング山盛りとって食べもせず
- ・ またどうぞ二度とこないと口ごもる

追伸・肝心なことを忘れておりました。この旅は空気のようなかみさんと二人でした。

走行距離千四百六十六キロ。

了



平成十九年七月寄稿